

緑区のブドウ畑で確認されたニホンアナグマ

名古屋市内のニホンアナグマは、1982年に中区千代田三丁目のマンション11階のバルコニーで発見された記録があります(朝日新聞名古屋版1982年1月3日)。ただし、この個体は、マンションの11階で発見されたことや発見現場が都市部であることから、本当に野生個体なのか判断が付きません。その後、市内でのニホンアナグマの確認記録は皆無でした。そのため、ニホンアナグマは名古屋市のレッドリストで絶滅危惧IAに指定されています。

ところが、2013年9月28日、緑区鳴海町大清水のブドウ畑で一頭のニホンアナグマが捕獲されました。この地域は区画整理が進んでいるものの、愛知用水沿いに林地や畑が見られ、昔ながらの里山の風景がわずかに残っています。しかし、すぐ近くまで宅地が迫っており、今後、この場所でニホンアナグマが生きていくのは難しいかもしれません。今回のニホンアナグマの発見によって、市内のわずかに残された里山を今後どのように守っていくべきなのかとでも考えさせられました。

(生物多様性専門員 野呂 達哉)



緑区のブドウ畑で捕獲されたニホンアナグマ (撮影:小島盛夫さん)

池干し後のモニタリング調査(茶屋ヶ坂池)

2014年11月18日、なごや生物多様性保全活動協議会では、昨年11月に池干しを実施した茶屋ヶ坂池(千種区)で、池干し後の生物相を把握するためのモニタリング調査を市民調査員14人とともに行いました。

調査の結果、ヒメタニシ(在来種)、ヌマガイ(準絶滅危惧*)、アメリカザリガニ(外来種)、ブルーギル(外来種)、オオクチバス(外来種)、ミンシツピアカミミガメ(外来種)などが確認されました。

池干し前と比較して、ヒメタニシ(在来種)、アメリカザリガニ(外来種)、ブルーギル(外来種)が増えていることが分かりました。昨年の池干しの際、外来種を可能な限り取り除いた結果、外来の大型捕食者(オオクチバスなど)が少なくなった環境で、在来種や防除できなかった外来種が増えたものと考えられます。

今回の調査から、在来種が増え外来種が減るといった池干しの効果を確認されました。一方、池干し後に減った在来種や増えた外来種もあり、池干しの課題が明らかとなりました。外来種の防除を目的に池干しを実施する際は、目標とする池の生態系を明確にした上で、計画的かつ順応的に対応していく必要があります。

※トブガイとしてレッドデータブックなごや2010で準絶滅危惧

(生物多様性市民協働推進員 寺本 匡寛)



池干しによる効果を実感。同時に今後の課題が明らかに。

ヌマガイ

ESD併催イベントに出展しました



2014年11月10日～12日、「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」が名古屋国際会議場(熱田区)で開かれ、世界各地から150の国・地域の代表者やNGO関係者ら1,000人以上が参加しました。そして併催イベントとして「ESD交流フェスタ」が、11月8日～12日に開催され、なごや生物多様性保全活動協議会も出展しました。協議会事務局のなごや生物多様性センターはじめ、いくつかの協議会会員団体がブース出展やパネル展示、ステージ発表を行い、国際会議の盛り上げに一役買うとともに、日頃の取組みを発信したり他団体との交流を深めることができました。

世界会議では、その成果として持続可能な社会づくりを推進するための「あいち・なごや宣言」が採択されました。生物多様性の保全、様々な課題へ取り組むための教育の重要性等が再確認され、身近な自然を守り育み次世代に引き継ぐこと、「担い手」を育成することの大切さを改めて感じました。



ブース出展の様子

大高緑地湿地の会

大高緑地湿地の会は、湿地復元の活動をする前は、毎月1回大高緑地を半日かけて、鳥や植物等の自然観察会を行っていました。その活動の中で、花木園が猛暑・少雨の夏でも水がコンコンと湧き出していた事と、水がしみ出しているところにこの地方固有の植物シラタマホシクサやトウカイコモウセンゴケが生えていた事で、この水を利用して消滅しつつある湿地を復元して、そこに生育・生息する植物や昆虫を増やせないかと考えたのが活動のきっかけです。

活動は2000年頃からで、まず初めに大高緑地を管理している愛知県に湿地復元活動の趣旨説明や許可を得る話し合いを行いました。2001年9月に県から許可が下り、2002年から活動に入りました。

現在の活動内容(右表)は、毎月第二日曜日午前9時から11時30分で、湿地の植物に十分な日光が当たるようにするための草刈り・落ち葉掻きがメインです。また、湿地性の植物は他の植物と違って栄養状態が良いと育たないので、刈った草などは全て別の置き場に運んでいます。その他、夏場には市民参加の「トンボを守ろう!ザリガニ釣り大会」を実施して、駆除を通じての外来種問題のPRや、有志による自然観察会も行っています。

どなたでも参加大歓迎ですので、湿地の植物・昆虫が喜んで生育・生息できる環境整備にお力を貸して下さい。

(代表 大主順一)

活動に参加されたい方、ご興味がある方は、yoka1115@violet.plala.or.jp(大主)までご連絡ください。



月毎の主な活動内容

1月	ひょうたん池の泥上げ
2月	コモウセンゴケの丘の刈り込みと落ち葉掻き
3月	湿地上部誘導路の草刈り
4月	冬鳥の餌場の草刈り
5月	シラタマホシクサ自生地の草刈り
6月	中央湿地の草刈り
7月	ひょうたん池・導水路周囲の草刈り
8月	池のアシ刈り
9月	トンボを守ろう!ザリガニ釣り大会(一般参加)
10月	コモウセンゴケの丘の草刈り
11月	シラタマホシクサ自生地の草刈りと種まき
12月	中央池の泥上げ

掲示板

なごや生きもの報告会 ～調査・保全活動について～

〈主催〉なごや生物多様性保全活動協議会(事務局なごや生物多様性センター)

日付 平成27年2月1日(日)

10時30分～16時(開場:10時)

場所 中区役所ホール(中区栄四丁目1-8)

内容 **午前の部 10時30分～正午**

「名古屋城の生きものたち」:名古屋城とその周辺の生きものについての紹介。

午後の部 13時～16時

「なごやでの調査・保全活動」:平成26年度に実施した調査・保全活動についての報告。

※午前の部または午後の部のみの参加も可能です。

定員 300人 **申込方法** 事前申込不要

その他 当日、先着順です。直接お越しください。(お席には余裕があります。)

希少種シンポジウム

〈主催〉なごや生物多様性センター

日付 平成27年2月28日(土)

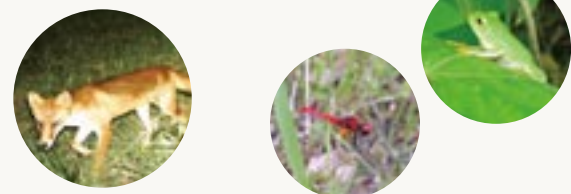
14時～17時(開場:13時30分)

場所 鯉城ホール(中区栄一丁目23-13 伏見ライフプラザ5階)

内容 名古屋市版レッドリスト・レッドデータブックの改訂に向けて行った生物調査から分かった、なごやの希少種の現状をご紹介します。

定員 300人 **申込方法** 事前申込不要

その他 当日、先着順です。直接お越しください。(お席には余裕があります。)



問い合わせ・申し込み先

発行:名古屋市環境局なごや生物多様性センター

住所 名古屋市天白区元八事五丁目230番地(地下鉄塩釜口駅2番または3番出口から徒歩5分)

電話 052-831-8104 **FAX** 052-839-1695

E-mail bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

なごや生物多様性センターウェブサイト

http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/biodiversity

なごや生物多様性センター Facebookページ(どなたでもご覧いただけます)

https://www.facebook.com/bdnagoya

名古屋市公式ウェブサイト

http://www.city.nagoya.jp/

なごや生物多様性保全活動協議会 http://www.bdnagoya.jp

ウェブサイト
QRコード



このニュースレターは古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

生きものシンフォニー

いのちかがやくなごや

13号

平成26年12月

ESDイヤー記念 名古屋城生きもの調べ2014

名古屋城(名城公園)は、まとまった緑地や水辺を有する、都市部における貴重な生きものの生息・生育空間です。今年度は、名古屋城を重点調査場所として、これまでに昆虫・カメ・陸貝などの調査を行いました。



CONTENTS

特集

ESDイヤー記念

名古屋城生きもの調べ2014、生物多様性カフェ「名古屋城外堀のオニバス」

TOPICS

緑区のブドウ畑で確認されたニホンアナグマ

池干し後のモニタリング調査(茶屋ヶ坂池)、ESD併催イベント

活動紹介

大高緑地湿地の会

掲示板

なごや生きもの報告会～調査・保全活動について～、希少種シンポジウム

ESDイヤー記念 名古屋城生きもの調べ2014

今年度は、名古屋城を重点調査場所に位置付け、なごや生物多様性センターとなごや生物多様性保全活動協議会※1の共催で「名古屋城生きもの調べ2014」を行っています。協議会会員と市民生きもの調査員※2を中心に、様々な種類の生きものの生息状況を調べました。

今回の調査について、「なごや生きもの報告会」の午前の部で発表します！詳しくは、紙面にある「掲示板」をご覧ください。



昆虫調べ

2014年9月23日(火)の、あたりもどっぴりと暗くなった頃、名古屋城と名城公園の2箇所で昆虫調査を始めました。名古屋城は専門家のみで、名城公園は専門家と協議会会員、市民生きもの調査員で調査を行いました。

今回は、光に誘引される夜行性昆虫を採集する灯火採集法を採用しました。白布をスクリーンのように地面に垂直に張り、蛍光灯2本と水銀灯1本をその前で点灯。周辺から飛来して白布にとまった昆虫を採集しました。この日は、ほぼ月の光のない日(月齢28.5日)でしたが、この方法は月の光のない夜の日の望ましいです。

集まって来た昆虫は、種類ごとに容器を分けて採集します。甲虫類はできるだけ同じ仲間のものを同じ容器に入れ、蛾は羽がちぎれたり鱗粉(りんぷん)が取れたりしないよう注意しながら、慎重に採集ピンに捕えていきました。小さな羽虫はスポイトで吸って採集容器に捕える吸虫管という道具を使用して採集しました。

この日は、種類は多くありませんでしたが、名古屋市ではよく見かける蛾や甲虫、カメムシ、ウンカ、カゲロウの仲間のほか、名古屋市で初確認のものも見つかりました。こうした未確認の生きものがまだまだいるのではないかと期待させてくれました。

(生物多様性市民協働推進員 茶原 真佐子)

名古屋市初確認の昆虫



ネジロフトクチバ

南方の山地性の種だが移動性が高く、希に関東以北でも確認される。東海地方でも偶産種※と考えられる。(文・写真 岩下 幸平)

※その地域にもともと生息していない種で、他の地域から侵入したものや、一時的に侵入してきたもの。



今回採集された蛾の中でも大型のエピガラスズメ



マエアカスカシノメイガ



甲虫やバッタの仲間たち



鳥に似た羽をもつシラホシトバ

※1 なごや生物多様性保全活動協議会とは

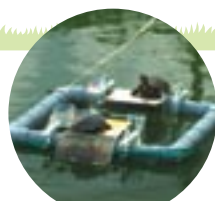
市民・専門家・行政からなる協働組織。平成26年12月現在、34の団体会員と22人の個人会員で構成。なごやの生物とその生息・生育環境について調査・保全活動を実施しています。事務局はなごや生物多様性センター。このニューズレターでは「協議会」と略して表記することがあります。

カメ調べ

2014年9月25～27日に名古屋城外堀(水堀)と名城公園のおふけ池でカメ調べと題したカメ類の生息調査を行いました。また、この調査に先駆けて、9月2日から浮島型のカメ罟を設置しました。

名古屋城のカメ類調査は2004年から続けていますが、以前の調査では、在来のカメ類の他に、ミシシッピアカミミガメ、カミツキガメ、ハナガメ、ミナミシシガメといった外来のカメ類も捕獲されています。また、ワニガメの目撃情報も寄せられています。

今回の調査では、ニホンシシガメ7個体、クサガメ24個体、ニホンスッポン2個体、ミシシッピアカミミガメ13個体、ペニンシュラクーター1個体、ミシシッピニオイガメ1個体が捕獲されました。この内、明らかに外来のカメ類にあたるのは、ミシシッピアカミミガメ、ペニンシュラクーター、ミシシッピニオイガメの3種類で、いずれもアメリカ合衆国原産です。これらはベトナムとして日本に輸入されたものですが、国内の野外で繁殖しているのはミシシッピアカミミガメだけです。ペニンシュラクーターについては過去に鶴舞公園の池で捕獲されていますが、ミシシッピニオイガメについては今回が市内初確認です。いずれの2種も日本での越冬が可能ですので、同じ場所にオスと



浮島型のカメ罟



捕獲したカメを詳しく計測

メスが捨てられていれば、野外で繁殖してしまう可能性があります。

今回、ニホンシシガメなどの在来のカメ類は、すべて水堀東側のヨシ原付近で捕獲されました。ヨシ原付近は採餌場所や活動場所、隠れ場所として、在来のカメ類にとっては非常に好適な環境です。このヨシ原部分には、オニバスやエサキアメンボなどの希少種も生存しています。名古屋城外堀のヨシ原が今後も存続していけるような環境への配慮もまた必要だと思いました。

(生物多様性専門員 野呂 達哉)

陸貝調べ

2014年10月26日(日)に、名古屋城外堀の2箇所で、カタツムリ・キセルガイ・ナメクジなどの陸貝の調査を行いました。陸貝は、乾燥や高温から身を守るため、落ち葉の下や腐葉土の中によく隠れています。調査では、落ち葉のあるあたりを中心に、ふるいなども使いながら目視で陸貝を探しました。コメ粒ほどの大きさのものを中心に、何種類かの陸貝が見つかり、場所によって見つかった陸貝の種類に差がありました。これからさらに詳しく、見つかった陸貝を調べていく予定です。



その他に、哺乳類や、プランクトンなどの調査も行いました。

※2 「市民生きもの調査員」に登録しませんか?

なごや生物多様性センターや協議会が主催・協働・協力する生物調査や講習会、イベントなどの実施情報を直接メールでお届けします。調査結果なども随時お知らせします。

登録方法

①氏名、②連絡先の電子メールアドレス(無い場合はFAX番号)、③住所、④所属(NPO等に所属している場合)、⑤学生・社会人・その他の別を書き、電子メールまたはFAXでお申し込みください。
電子メール: bdnagoya@kankyokyoiku.city.nagoya.lg.jp
FAX052-839-1695

詳しくは、協議会ウェブサイトへ <http://www.bdnagoya.jp>

※このサービスへの登録および利用料は無料です。(ただし、登録やメール受信にかかる通信料は利用者負担となります。)
※ご案内は登録された方全員に送信しますが、活動の内容によっては年齢、人数を制限し、参加いただけない場合があります。ご了承をお願いします。
ご希望 案内は、主にPDFファイルでお送りします。パソコンなどで利用されているPDFファイルが受信可能な電子メールアドレスでの登録をお願いします。(FAXでの登録も可能ですが、提供できる情報が少なくなります。)

ESDイヤー記念

第18回 **生物多様性カフェ** 於:名古屋城茶席
名古屋城外堀のオニバス ~水草から見る生物多様性~

2014年10月19日(日)、浜島繁隆さん(ため池の自然研究会・顧問)を話題提供者としてお招きし「名古屋城外堀のオニバス~水草から見る生物多様性~」と題した「生物多様性カフェ」を開催し48名が参加しました。今回はESDイヤー記念として、会場をいつものなごや生物多様性センターから名古屋城茶席に移し開催。カフェ終了後には、自由参加による観察会で締めくくり、オニバス生育場所の様子を皆さんに見ていただきました。



会場(茶席)の様子

浜島繁隆さんのお話

これまで約50年間、全国の水草を調査されてきた浜島繁隆さんから、水草全般についての基礎的な知識やオニバスの生態について丁寧な説明をしていただいた後に、オニバスの全国的な分布状況、愛知県内におけるオニバスの記録、そして、オニバスを含めた名古屋城外堀の水草の変遷について、貴重な写真やデータを基にお話していただきました。

名古屋城外堀でも、かつてはヒシヤガガブタ、オニバスなどが水面を覆い、濃尾平野の池や沼で見られる一般的な水草が生育していたようですが、現在では、生育環境の悪化によって衰退してしまいました。今では姿を消してしまった名古屋城外堀の水草の数々を貴重な写真とともに紹介していただき、会場の茶席は50年程前にタイムスリップしたかのように、かつての外堀の風景に思いを馳せました。



1967年頃の外堀の様子(写真提供:浜島繁隆さん)

20年ぶりのオニバス確認と現在の状況について

20年ぶりのオニバス確認にいたる経緯や現在の状況について中村(生物多様性専門員)から報告しました。

2009年には、かつての植生図を基に、外堀の土の中で眠っている種子を探す「埋土種子調査」を行ったものの、この調査ではオニバスを確認できませんでした。ところが、2012年秋に市民の方からいただいた情報提供によってオニバスが再確認され、今回のカフェではその後の調査記録などを紹介しました。



2014年10月19日の生育状況

質疑応答では

小菅崇之さん(なごや生物多様性保全活動協議会・水生植物部会 部長)に話題提供者と参加者との間を繋ぐファシリテーターを務めていただきました。

参加された皆さんと、希少種の移植についての問題点や園芸植物を野外に放つことの問題についての意見交換、その他「(名古屋城付近で住んでいた方から)かつて水草が繁茂していたが、徐々に様子が変わってきた」、「専門家、市民、行政など関係者で協力して保全していければ…」など、たくさんの意見を交換できました。生物多様性の保全には、まず身近な自然を知っていただくことが大切です。その意味で、今回のカフェに参加された皆さんには、名古屋城外堀のオニバスについて知っていただき、関心を持っていただけたのではないかと思います。

観察会では

「名勝二之丸庭園」付近から双眼鏡やカメラを用いてお堀を観察し、ヨシ帯の隙間に生育するオニバスの様子を皆さんに見ていただきました。秋も深まりオニバスは枯れかけていたものの、参加された皆さんが楽しそうに観察されており、今回のカフェを開催できたことに喜びを感じました。



観察会の様子

(生物多様性専門員 中村 肇)

生物多様性カフェは、次の皆様のご協力をいただきながら実施しています。

- 【協賛】イオン八事店、(株)坂角総本舗、ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株) (50音順)
- 【運営協力】名城大学ボランティア協議会

センターの事業は、市民・事業者・研究者・教育機関など多様なセクターの皆さんとの連携・協働のもとすすめています。生物多様性カフェに協賛いただける事業者等がありましたら是非ご連絡ください。